

第6回検討会の議事概要

1. 第6回検討会の主な内容

これまで議論した今後のまちづくりの方向性や具体の取り組み（素案）などを取りまとめたまちの将来の姿（素案）や、今後の地域住民への周知方法や意見募集についても意見交換を行った。

【主な意見】

（将来像（素案）の内容について）

- ・素案に掲げる取り組み内容が、どうやって実現できるのかを住民は知りたいと思う。個別の取り組みの例示だけではよくわからないのではないかな。
- ・チャレンジショップと情報共有プラットフォームの取り組みはセットとして捉えている。チャレンジショップは、テナント誘致を補完するような形で開設し、例えば六甲アイランドには無い業種でトライして、上手くいけば既存の空き床に入れるような仕掛けが必要。
- ・まちづくりの方向性を検討するうえでの「住まう」「集う」「働く」の3つの視点はそれぞれ単独のものではなく、各々をどう掛け合わせて、そこに具体の取り組みをどう位置付けるかが重要。この検討会は、掛け合わせにより出てくる新たな取り組みを、いかに感度よく取り込んでいくかの役割を担っていると思う。
- ・特色あるまちにするには、既存の高齢者施設がたくさんあるので、それに見合ったスポーツ施設等を整備してはどうか。
- ・暫定利用の土地に、多様な人が住む住宅、外国人留学生の宿舎、単身赴任者用の寮などを組み込む中で、素案の各取り組みを実行していけば、実現につながるのではないかな。
- ・集う視点については、週末と平日できちんと峻別しながら、島内、島外の周辺、インバウンドの方々の3層くらいで、バランスを考えながら取り組むべき。
- ・まちづくりを考える上で大事なことは、サステナビリティ（持続性）、ダイバーシティ（多様性）、クリエイティビティ（創造性）の3つのキーワードがあるが、失敗を恐れず取り組む、そして軌道修正していける弾力性を持つことが大事。

（今後の取り組み方について）

- ・今後のステップとして、素案の取り組みの中で、今からすぐできること、数年でできること、10年くらいかけてできることについて、住民も一緒に考えて、

実施する事業者や主体について早く議論していきたい。

- ・この将来像（素案）は作って終わりではなく、地域住民に周知し、取り組みを進める中で、地域の方々ともっといいものができるよう意見交換などをしていくことが大事。
- ・素案には、ソフト・ハード面や短期と中長期と取り組みが混在しており、多様性が高く、だからこそ実現性も出てくると思う。六甲アイランドのまちの在り方としては、他の地域とは違って、実験的に取り組みを進めていくことが必要であり、六甲アイランドだからこそ、行政と地域の住民や企業が一緒になってバランスよく取り組んでいく方法があるのではないか。
- ・今後、具体の取り組みについては、それぞれロードマップを作り、その中でどういう動き方をしていくべきか、事業者を誘致するのか、地域の中で組織を作っていくのか、学校や企業等と連携を結んでいくのかなどを考えていくべき。

（地域への周知について）

- ・住民への周知においては、このままの資料だと、戦略的な取り組みが個別に記載されており、関連性等が少しわかりにくいかもしれないので、住民が読みやすい内容となるよう、もう少し工夫が必要。
- ・まちづくりの方向性と具体的な取り組みをもう少し分かりやすく、上手く関連づけるような形で整理した方がいい。
- ・具体の取り組みの実施時期については、5年や10年といった明確な時期は示さず、あくまでも素案であり、1つの取り組み例というまとめにすべき。
- ・周知方法として、例えば、まちづくり協議会や自治会の役員会の場で説明すれば、住民からどういう意見があるかある程度ヒアリングでき、それを踏まえて取り組みをどこで行うのかなど検討できるのではないか。
- ・今回の将来像（素案）は、ある意味、今後のまちづくりの指針というか、我々が期待する姿なので、そのあたりを、上手に広報していく必要がある。
- ・公表にあたっては、将来像（素案）の趣旨を地域住民にわかってもらえるようにすることが重要。